

製品名: PIGC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16133**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	PIGC GPI2
別名	
遺伝子 ID	5279.0
SwissProt ID	Q92535
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 170~250

背景

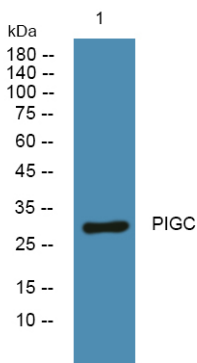
この遺伝子は、グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）脂質アンカーの生合成に関与する小胞体関連タンパク質をコードしています。GPI 脂質アンカーは多くの血液細胞に存在する糖脂質であり、タンパク質を細胞表面に固定する役割を果たします。コードさ

れているタンパク質は、小胞体の細胞質側にあるホスファチジルイノシトール (PI) に GlcNAc を転移する GPI N-アセチルグルコサミン (GlcNAc) トランスフェラーゼのサブユニットの一つです。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2つの選択的スプライシングを受けた転写産物が見つっています。また、11番染色体上の偽遺伝子も特徴づけられています。 [RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: UDP-N-アセチル-D-グルコサミン + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール = UDP + 6-(N-アセチル-アルファ-D-グルコサミン)-1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール。、機能: GPI 生合成の最初のステップである、UDP-N-アセチルグルコサミンからホスファチジルイノシトールへの N-アセチルグルコサミンの転移を触媒する複合体の一部。、オンライン情報: ホスファチジルイノシトール N-アセチルグルコサミン転スフェラーゼサブユニット C8、経路: 糖脂質生合成;グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー生合成。、類似性:PIGC ファミリーに属する。、サブユニット:PIGA、PIGH、PIGP、PIGQ、および DPM2 と関連する。DPM2 は活性に必須ではない。、

研究分野

グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生合成;

画像データ



Jarkat 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、PIGC ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩